



風災対策のポイント

建物全体を倒壊させたりするような大規模な強風被害もありますが、多くの場合は、ガラスや樋など建物の弱い箇所の局所的な被害です。また、被害の原因としては、強風の圧力による損傷もありますが、飛散物の衝突による被害が多いです。

風災被害をなくすための2つのポイント

1

弱い箇所をなくす、補強しておく

2

飛散しそうなものを撤去する

台風来襲直前に実施する対策

- ☐ 外壁スレートのフックボルトの緩みがあれば締め直しまたはボルト交換する。
- ☐ テント倉庫などで、膜が緩んでいれば紐の締め直し、穴があればガムテープ等で応急処置する。
- ☐ 自転車置き場、喫煙所などの簡易構築物はボルトの緩みなどを点検し、是正する。
- ☐ 屋外放置物（特にベニヤなどの板材）は撤去する。
- ☐ 工場、倉庫などでは、パレットを屋内に収納するか、屋外に置いたらチェーン等で緊結する。
- ☐ 構内各所に自転車が置かれていれば片付ける。駐輪場で集約する。
- ☐ 屋外保管物品をシートなどで覆っている場合、緊結する。ごみ置き場のネットなども同様。
- ☐ カラーコーン、立て看板、ノボリ、ごみ箱などは片付ける。
- ☐ ガラスはガムテープを×印に貼り、万が一割れた場合に飛散しないようにする。
- ☐ 開きっぱなしになっている開きドア、排煙窓を確認し、きちんと閉める。
- ☐ ジャバラゲートは風であおられやすい。チェーンなどを活用しあおられ防止措置をとる。
- ☐ シャッターは下中央部分が弱点。土のうを置くなどして、あおられ防止措置をとる。



水災対策のポイント

津波と異なり、河川洪水などの水災では、堤防至近の施設でない限り、水圧により建物が押し流されるケースはあまり起こりません。河川洪水や内水氾濫の場合は、ゆっくりと水位が上昇し、次第に床上浸水となり、建物や設備が水没する形態が多いです。水災被害をなくすためには、水に浸からなくする必要があります。

水災被害をなくすための3つのポイント

1

水をせき止め、浸入させない

2

モノを高いところに持ち上げ、浸水させない

3

入ってきた水を早く排出する

台風来襲直前に実施する対策

- ☐ 建物出入口などに防水板を設置する。
- ☐ 建物出入口などに土のうを設置する。
- ☐ 水のたまりやすい場所、浸入の予測されるところに排水ポンプを設置する。
- ☐ 停電に備え、排水ポンプの近くに発電機も準備する。
- ☐ 屋上、バルコニーなどの排水溝（ドレーン）を点検し、詰まりがあれば清掃する。
- ☐ 構内の排水側溝を点検し、詰まりがあれば清掃する。
- ☐ 1階床置き、屋外置きの物品は高所へ移動させる。（2階への移動、ラック上段への移動）
- ☐ 高所に移動できない場合はパレット上に置き、少なくとも10cm程度は持ち上げる。
- ☐ 炉は停止する。（炉に水が入ると水蒸気爆発の可能性あり）
- ☐ 車両は高所へ移動させておく。

排水溝が詰まって
室内へ浸水

